

平成29年度全国高校選抜「審判員報告」

C2 女子審判長

大森 智子

1. 採点上打ち合わせた事項

(監督会議での報告事項も含む)

①適用規則の確認

採点規則 2107 年版変更規 I、女子体操競技情報 26 号までを適用。
服装の規則については、高体連制定の高校適用規則を準用する。

④Dスコアへの質問について

規則通り、コーチがD審判に直接口頭での質問をし、D審判の回答に同意が得られない場合は審判長へ書面で提出すること。また、時間に遅れた質問、他の所属への質問は受け付けられないという規則の確認。

③選手の競技前の練習について

跳馬：1人2本

段違い平行棒：1人50秒

平均台：1人30秒

ゆか：3分（その組に棄権が出て人数が少なくても6人分の時間を確保）

④演技の開始について

演技の開始については、D1審判の合図の後、30秒以内に演技を開始しないと、減点0.30が発生すること、60秒過ぎると演技を開始することができなくなるの確認。

⑤音響装置の故障で音楽が止まってしまった場合

第1アクロラインの前で止まってしまった場合は、演技をやり直すことができる。

第1アクロラインの後に止まってしまった場合、選手は演技を続行しなければならない。

⑥跳躍や演技を試みない場合

従来通り、国内の競技会においては、器具や跳躍板に触れ、再びD1審判に挨拶することで0.00扱いとする。

⑤競技中の演技台での練習はできないことの確認。国内競技会ではマット上が演技台となるため、助走路を含むマット上での練習は演技中、採点中はできないため再度選手へ注意喚起を促した。

⑥演技中のコーチの行動

採点規則にはコーチの行動の違反項目として「合図、かけ声、応援等でコーチが自分の選手を援助する」という減点項目がある。演技中に選手への指示となるようなかけ声や応援と見られるかけ声、拍手などは控えていただくよう監督へ促した。

2. 採点上起こった事項とその処理

①怪我による競技続行不能になった時の対処

平均台の演技中足の裏（指の付け根）の部分の切っ払い、出血を伴う傷を負ってしまった選手が発生した。平均台の演技は終末技まですべて完了できたが、即応急処置をし、病院へ搬送したため、次の種目の演技をすることができなくなったことから高体連の規定に準じて次の種目については「棄権」ではなく「0.00」とした。

平均台の演技中での出血であったため、台上に多数の血痕が付いてしまった。台上に付いてしまった血痕をその場で濡れた布などで押さえて拭き取ったが、血液の対処については感染症予防の観点から、素手で扱うのではなく手袋など間接的に対処できる準備を事前しておくべきであったと思った。どの競技会においても同じようなことが発生することが予想されるので、今後、どの競技会においても、出血や嘔吐の措置が感染症予防の観点を中心に念頭に置いた措置が出来るよう事前に準備をしておく必要があることを念頭に置いていただきたいと思います。

3. その他特記事項・意見・感想等

審判業務全般においては、問題なくスムーズに業務が行われ、無事競技を終えることができました。各審判員が日頃より研修を積み、競技会前に実施される公式練習においても自己研修を行い、それぞれ種目内で統一見解を図ったことが、スムーズな採点業務につながったのではないかと思います。

競技については、シーズン始めの競技会ということもあってか、失敗をしてしまった選手が多く見受けられたように感じました。また、練習中及び競技中のアクシデントにより怪我をしてしまった選手が数名発生してしまったことは非常に残念でした。シーズン始めの競技会に合わせ調整するのは大変難しいことと思いますが、競技会において失敗を最小限に抑え、確実な演技を実施できる競技力も身につけられるよう、日々緊張感をもったトレーニングに励んでいただきたいと思います。また、新しい技に挑戦する時に、まだ技をコントロールできない段階での実施では怪我に繋がる可能性も懸念されます。高いDスコア習得のために積極的に難しい技や組み合わせに挑戦していただきたいと思います。怪我に繋がるような無理な実施にならないよう指導者の皆さんには技の実施の見極めをしていただきたいと思います。

また、選手においては今後高いDスコアを目指し高難度の技や組み合わせの習得に励むことと同時に、美しい立ち姿勢や、基本技の習得、表現力についても力を注いでいただきたいと思います。ゆか、平均台において立ち姿勢を含めた常に美しい体線での実施、表情や視線まで意識した表現力豊かな演技を習得することは、技を習得することと同様の時間がかかることだと思います。採点規則において芸術性についての指針が強く打ち出されるようになってから、振り付けや演技構成の工夫はどの選手にも見受けられ、全体的には芸術性に対する意識の向上はされているように思いますが、さらに意識を高め理想像を掲げてトレーニングに励んでいただきたいと思います。段違い平行棒においても、けあがり、振り上げなどの基本技の姿勢についてもつま先、膝、肘のゆるみがない常に美しい姿勢での実施を目指していただきたいと思います。高校生の段階では、技を覚える大切な時期であると思いますが、技の習得と同様に姿勢欠点のない演技、表情まで意識した表現力豊かな演技に磨きをかけていただきたいと思います。

選手の皆さんのさらなる飛躍を期待しております。

C 2 跳馬

D 1 審判員 白川 千尋

1. 採点上打ち合わせた事項

1) 適用規則の確認

2017年版採点規則 変更規則 I 情報26号までを適用

2) 採点指針の確認

情報26号跳馬採点指針「Dスコアの高い跳躍技の実施」「高さや距離を伴うダイナミックな跳躍」「着地の体勢が高く、安定した着地」をもとに、技の難易度から受ける迫力や雄大な性なども加味し、ダイナミックさに欠ける跳躍は「ダイナミックさに欠ける-0.1/0.3/0.5」を有効に使用して差をつける。

3) アシスタント、セクレタリーの任務

線審：練習回数カウントの確認

境界線の踏み出し0.1/0.3の減点の確認

コーチからの再確認の要求に対応できるよう、すべての過失は記録しておく

セクレタリー：跳躍毎にD1審判員による確認後、得点決定とする。

2. 採点上起こった事項とその処理

特になし

3. その他特記事項・意見・感想等

跳躍総数112(跳躍実施選手56名)中の跳躍技実施状況は以下のようであった。

(5跳躍以上実施された技を集計)

跳躍技番号	跳躍技	Dスコア	跳躍数
2. 10	前転とび～前方かかえ込み宙返り	4. 00	6
2. 20	前転とび～前方屈身宙返り	4. 20	6
3. 20	屈身ツカハラとび	3. 70	18
3. 12	かかえ込みツカハラとび1回ひねり	4. 10	10
3. 32	伸身ツカハラとび1回ひねり	4. 80	8
4. 20	ロンダート後転とび～後方屈伸宙返り	3. 50	14
4. 32	ロンダート後転とび～後方伸身宙返り1回ひねり	4. 60	23
4. 33	ロンダート後転とび～後方伸身宙返り1 1/2回ひねり	5. 00	5
4. 34	ロンダート後転とび～後方伸身宙返り2回ひねり	5. 40	5

第2空中局面が伸身宙返り1回ひねり以上の跳躍技(跳躍技番号4. 32、4. 33、4. 34、3. 12)の跳躍総数は44(全体の39%)であったことから、Dスコアの高い跳躍技に取り組んでいる傾向であると言える。しかし中には、転倒などの不安定な実施も見られた。今後は安定した実施となるよう、トレーニングを重ねて完成度を高めてほしい。

跳躍技番号3. 20、4. 20では、第2空中局面における「高さが不十分」「身体の伸ばし

が不十分または遅い」「ダイナミックさに欠ける」の項目で減点が大きくなってしまい、結果的にEスコアが伸びないという傾向であった。今後はこれらの跳躍技を第2空中局面の難しいものに発展させ、今年度採点指針であるDスコアの高い跳躍技の実施を目指していく必要があると思われる。

最後になりましたが、今大会の開催にあたり、ご尽力いただきました大会役員、関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

C 2 段違い平行棒

D 1 審判員 佐原 礼香

1. 採点上打ち合わせた事項

①適用規則の確認

採点規則 2017 年版、変更規則 I、情報 26 号までを適用

②採点指針の確認

「高い難度点と複数の組み合わせが獲得できる、高い D スコアの演技構成」、「肘の曲がり、膝やつま先の緩みのない美しく伸びた体線での実施」、「空中局面を伴う技の大きさとひねりを伴う技の正確な実施」これら 3 つの指針をもとに、け上がりや倒立などの基本技の体勢においても注視し、指針に沿わない演技に対しては、第 8 章の減点項目や第 11 章段違い平行棒の「種目特有な実施減点」および「前向きでない構成 0.10/0.30/0.50」を有効に使い、演技の質の差を得点で表していくことを確認した。

③Eスコアの確認（種目特有な実施減点）

「内容のない振り」「中間振動」の減点例を挙げ共通理解を図り、足が器械やマットをかすることに対する減点がない事の確認をした。

④アシスタントの任務の確認

・練習時間の計り方、中断時間の計り方を確認した。

2. 採点上起こった事項とその処理

プロテクターの破損で演技のやり直しの許可をもらうための申請があったが、その班の競技がすべて終了してからの申請であったため、その申請は受け付けられないと回答した。演技のやり直しについては採点規則、第 2 章の選手の規則を今一度、確認し今後役に立てていただきたい。

3. その他特記事項・意見・感想

今大会は、Dスコアが 2.2~5.7 と演技構成の面で非常にレベルの差を感じた。しかし、Dスコアが高い、低いに関わらず基本技のけ上がり、振り上げ倒立実施時に減点が見られる選手がおり、これまで日本の女子が重要視してきた「体線の美しい演技」に結びついておらず非常に残念であった。高い難度の技に挑戦することはもちろんであるが、日頃から基本技の練習も忘れずに取り組んでいただきたい。

Dスコア 5.7 の演技には空中局面を伴う技が 4 技含まれ、更に組み合わせ点を複数箇所を獲得

できる構成となっていた。この演技は途中で落下があったが、現在日本が目指している演技内容であり、このような選手が今後増えていく事を強く願う。また、優勝した選手は、振り上げ倒立の姿勢も良く、空中局面を伴う技の高さもあり、終末技も安定した着地であったことがEスコア 8.450 という良い評価につながったと言える。

段違い平行棒は、1つの技の習得に時間がかかる種目であるが、常に体線の美しい演技を意識し、高難度の技に挑戦をしていってほしい。今後の選手の活躍を期待している。

Dスコアが最も高かった選手が実施した高難度の技と組み合わせ点（Dスコア 5.7）

- ・後方屈身足裏支持回転倒立背面とび出し上移動高棒懸垂～パク宙返り (D+D 0.10)
- ・後方屈身足裏支持回転倒立背面とび出し 1/2 ひねり上移動高棒懸垂 (E)
- ・イーガー宙返り (D)
- ・シュタルダー 1 回ひねり～後方 2 回宙返り 1 回ひねり下り (D+D 0.10)

最後になりましたが、今大会の開催にあたり、ご尽力いただきました大会役員、関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

C 2 平均台

D 1 審判員 佐野 吉見

1. 採点上打ち合わせた事項

採点指針の確認（2017年版採点規則 変更規則Ⅱ 情報 26号まで適用）

- ・Eスコアに関する確認
種目特有な実施減点、ダンス系での身体の姿勢、調整、停止の減点を確認した。
- ・Dスコアに関する確認
- ・アシスタントの任務の確認

2. 採点上起こった事項とその理由

特になし

3. その他特記事項・意見・感想等

< D・Eスコア別得点結果（参加者 59名） >

Dスコア	total
6.0以上	4名
5.5以上～6.0未満	8名
5.0以上～5.5未満	30名
4.5以上～5.0未満	12名
4.0以上～4.5未満	2名
4.0未満	3名

Eスコア	total
8.0以上	4名
7.5以上～8.0未満	7名
7.0以上～7.5未満	10名
6.5以上～7.0未満	11名
6.0以上～6.5未満	9名
5.5以上～6.0未満	7名
5.0以上～5.5未満	3名
5.5未満	8名

演技構成に関しては、Dスコア 5.0 以上の選手が 30 名、5.5 以上の選手が 8 名、6.0 以上の選手が 4 名で、全体的に D スコアが上がっていることが分かる。高い D スコアの演技構成を目指し、日々努力していることが伺える。

反対に E スコアは 6.0～7.0 未満の選手が 20 名であり、全体の 1/3 を占める。この要因の一つはダンス系の減点が影響している。ダンス系の技はアクロバット系の技に比べて実施しやすいところがあるが、理想からの逸脱は、「身体の姿勢の減点 0.10 / 0.30 / 0.50」に加えて「高さの減点 0.10 / 0.30」「正確さの減点 0.10」が加算される。

また、着台のふらつきにおいても、「平均を保つための余分な動き：0.10 / 0.30 / 0.50」の減点が適用される。ここは「わずかなバランスの欠如：0.10」「腰の位置まで頭が下がるまたは複数のわずかな動き：0.30」「大きな体/脚の動き：0.50」であるため、正確な実施をしなければ 1 つの技でたくさんの減点が適用される。

また、2017 年版採点規則から入った「調整：各 0.10」の減点とは、「不必要な踏み出しや動き」があるとその都度減点が適用される。例えば後転とびをする前に 1 歩前に出て後転とびに行く場合、この 1 歩について減点が適用となる。採点規則集には「動きと技の間のつながりは滑らかに途切れなく流れていなくてはならない」「演技は途切れた技をつないだだけのものであってはならない」とあるように、これが平均台の演技の大前提であり、そこから逸脱するものは減点となることを今一度確認頂きたい。

また、ここは以前から変更のないところだが、「横の動き」がポーズだけであったり、移動が見られない選手がいた。この項目が入った当初は意識をして横にしっかり移動しながら動きが移り変わっていたが、ここ最近意識が少し薄くなっているように感じた。また、「胴の一部が台に接する平均台に近い動き／技の組み合わせがない」においても同様に、「動きまたは技の組み合わせ」が必要であり、1 箇所ですべてポーズをし、すぐ次に行ってしまう選手が見受けられた。指導者もついうっかりしてしまうことはあるかもしれないが、選手自身がおおよそのルールを把握していれば、このようなミスは防げる。もう一度、ルールについてしっかりと確認をし、0.1 を大事にして欲しい。

最後になりましたが、この大会を開催するにあたり、大会役員、関係者の方々にお世話になりました。感謝とともに、心よりお礼を申し上げます。

C 2 ゆか

D 1 審判員 大川 由美子

1. 採点上打ち合わせた事項

- ・適用規則の確認

2017 年版採点規則 変更規則 I 情報 26 号までを適用

- ・採点指針の確認

- ・E スコアに関する確認（採点指針を踏まえ、主に以下のことについて確認した）

①現象だけにとらわれず、技の特性を理解した上でその技の理想像をしっかり持ち、高い D スコアの演技構成を評価し採点を行う

②立ち姿勢のみならず、身体全体を使った美しい動きで、芸術的作品としての完成度の高い演技を見極め採点を行う

- ・D スコアに関する確認

- 特にダンス系の技の承認要求と組み合わせ点を得るための承認項目を確認した

- ・アシスタントの任務の確認

2. 採点上起こった事項とその処理

採点上問題となるような特筆すべき事項はなかった。

D スコア（ダンス系の技の承認）に対する質問 1 件

→承認要求を満たせていなかったため、承認できない旨口頭にて監督に説明をした。

3. その他特記事項・意見・感想等

今回の競技会においては、高難度のアクロバット系の技や、組み合わせ点を得るために複数のアクロバット系の技の組み合わせに取り組んでいる選手が多くいた反面、アクロラインの着地の際に演技面を踏み出し、減点される選手が多数見受けられた。ライン減点をされた選手は、出場選手全体の約 4 割に及ぶほどであった。ライン減点のみならず着地姿勢や着地後のステップも同時に減点されることが多いため、安定した着地に期待したい。組み合わせ点を得た選手の多くは「後方伸身宙返り 1 1/2 ひねりー前方伸身宙返り 1 回ひねり」で組み合わせ点+0.10 を獲得する構成を実施していた。組み合わせ点+0.20 を獲得できる構成を実施している選手は少なく、高い D スコアを狙うためにも今後ますます多様な組み合わせへの取り組みを期待したい。

また、多様なダンス系の技を取り入れている選手が多く見られたが、ひねりを伴うダンス系の技がひねり不十分によりその技として承認を得られない実施も見られ残念であった。特にひねりを伴う技については、ひねり不十分にならないよう確実な実施への取り組みが望まれる。

全体を通して、振付や音楽が工夫され、芸術性を意識した演技が多い印象であった。

コーナーでの振付や演技面の使い方の工夫も多々見受けられた。ただし、ターンの前の過度な準備動作や、ところどころに調整があり、演技がとどまる選手もいたため、今後の課題であると感じた。引き続き、指針に沿った D スコアの高い演技構成かつ観客を魅了する表現力豊かな演技に期待したい。

最後に、開催地の宮城県体操協会をはじめ、ご尽力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。